

地域の子育て環境の主な意見（目指す方向性と今からできること）

●このまちが目指していく方向性

- ・子育て世帯に安心して住んでもらえる住環境が必要。
- ・学校だけでは心を開きにくい親もいる。気軽に話せる場が求められている。
- ・このまちはサポートを受けられる、ということが伝わるまちづくりができればよい。
- ・地域に特徴ある居場所を増やして、子どもが自分の居場所を複数から選べるように。
- ・10年先に住みたいと「選ばれるようなまち」とするには、子どもを連れて集まれる場。
- ・30～40代が入居し、人口を増やさないとコミュニティ維持がままならない。

●子育て世代・子どものための既存施設・空間の有効活用

- ・地域に子どもを連れて集まれる場所が不足。みんなでバーベキューをやりうと思っても、それをやる場所すら地域にないのが現状。まずは集まれる場所づくりが必要。
- ・幼稚園に来たママ等が立ち寄りやすい店や場所をつくる。
- ・まちなか図書館などイベントのできる小さな場・スペースを増やす。
- ・集会所を親子がつかえる地域のたまり場にしては。
- ・使っていない集会所を（小さな）図書館にする。
- ・市営住宅の空き住戸を大学生向けシェアハウスに。
- ・市営住宅の空き住戸に桃山学院大学の学生寮を作り、学生が子どもに勉強を教え、学力アップにつなげる。
- ・青少年センターを今より分かり易い場所に移転。
- ・今の子どもたちにも、青少年センターを通じ、まちに愛着を持ってほしい。

●子育て世帯を呼び込むための取り組み・活動

- ・地域の今ある取組み（西教寺、ダッシュ等）を横に広げる。
- ・青少年センターには、地域以外の子どももたくさん来る。この変化を生かしていけたら。
- ・市営住宅に、子育て世帯が住みたくなるような特典（子どもが卒業まで住み続けられる等）をつけたり、入居要件を緩和してはどうか。
- ・民泊のように海外の留学生が地域に生活して地域交流できるように。
- ・留学生による語学教室や、小学校で国際色のある授業に取り組み、地域の売りに。
- ・他市の取組であるヤングサンタ（地域の青年が保護者に代わりサンタの仮装でプレゼントをお届け）や、PTAが中心となった朝ごはん提供をしてみてもは。
- ・団地の集会所などで青少年センターの取組みを出前で行う。
- ・子どもの遊びを大人が見守る場づくり。
- ・地域で行っている活動・取組みを、取組みを知らない地域へ情報を広げていく。
- ・悩みを持つ子育て世帯や子どもを、市・地域等が協働で支えて元気に。
- ・「住む」前段階として、このまちに若い世帯を引き付ける「目玉」が必要
- ・建物の前に小さな取組みを積み重ね、参加者の声を聞きながら活動をつくりあげるべき。
小さな子ども向けイベントなど参加しやすく。立場関係なくオープンにみんなが参加
- ・他市では団地に、24時間対応の相談ステーションを設置し、ボランティアが子育て相談
- ・関わるきっかけとしてハードルの低いイベント（餅つきや誕生日会など）を計画。
- ・プレーパークは地域で運営することができる事業であり、まちづくりのきっかけになる。
プレーリーダーとして地域の大人に参加してもらえ、費用もあまりかけなくてもできる。